

ベトナムFW 8/3~8/7 平和班報告

1日目 ベトナム到着

国際科平和班代表4名(黒田・山川・若菜・北野)はホーチミン市にて4日間の研修を行いました。事前に「ベトナム友好協会」の富岡勉氏にベトナムと長崎の関係について教えていただいたり、昨年参加した先輩方にお話を聞いたりして、期待に胸をふくらませ、ベトナムに出発しました。飛行機は、ハノイで国内線に乗り換え、約9時間かけてホーチミンに到着しました。

2日目 孤児院訪問、現地の学生と市内散策、ドクさんとの夕食会



2日目は、午前中に孤児院を訪れ、午後は現地の学生とホーチミンを散策しました。孤児院は、キークワン寺というお寺の中にあり、240人ほどの子供たちが生活しています。50人ほどの市民の方がボランティアで子供たちの世話をしているそうです。また、食料やお金を寄付して下さる方が毎日訪れるそうで、たくさんの人の温かさで成り立っているのだ、という印象を受けました。

また、まだ生まれたばかりの赤ちゃんも孤児院で生活していました。中には、枯葉剤の影響を受けた子供達もあり、「捨てられた」という悲しい現実にも胸が痛みました。

見学の後、施設内の保育園児達と折り紙で遊んで、交流しました。みんな元気がよく、あっという間に折り紙はなくなりました。みんな喜んでくれて、私達もとても嬉しかったです。

午後は、現地の学生ウェンさんとチーさんと一緒に、ホーチミンの街を散策しました。2人とも、私たちと同じ年でしたが、ウェンさんは学校で英語を、チーさんは日本語を履修していました。同じ高校2年生でありながら外国語を使いこなす2人から強く刺激を受けました。ショッピングモールで昼食をとったり、サイゴン大教会(聖母マリア教会)や、ベトナムの建国の父と言われているホー・チ・ミン氏の銅像があるホーチミンスクエアなどの観光名所を巡ったりして、とても充実した時間を過ごすことができました。実際に肌で感じるベトナムの空気に、私達は、終始目を輝かせていました。



また、2人には、平和に関するアンケートに答えていただきました。「平和教育を受けたことがあるか」「戦争についてどう思うか」の問いの答えから、「平和教育に差はあるけれども戦争には反対だ」という共通の思いを知ることができました。これからのSGHの研究に活かしていこうと思います。

この日の夜は、グエン・ドク氏との夕食会でした。ベトナム戦争の際に撒かれた枯葉剤の影響を受けたドクさんだからこそ語ることでできる、平和に対するお話などを聞く事ができ、質問にもたくさん答えてくださいました。特に印象的だったお話は、社会主義国家であるベトナムでは平和教育ができないということです。しかし、ドクさん自身は平和教育をするべきだとおっしゃっていました。多くの人々が戦争を嫌っているはずなのに、平和教育を行えないというのは、私達にはなかなか納得できないお話でした。この夕食会を経て、普段教科書では学べないようなことを学ぶことができ、私たちにとって、大変貴重な時間となりました。



3日目 戦争証跡博物館、クチトンネル訪問

3日目に戦争証跡博物館を訪れました。ここは、ベトナム戦争終結から40年余りが経った今なお、この悲惨な出来事を忘れないよう未来へ語り継ぐ場所でした。その展示のほとんどはベトナム戦争の写真や保管物でした。長崎の原爆資料館に何度も足を運んだことのある私達ですら、目を背けたくなるようなものばかりでした。そして、ベトナム戦争がいかに壮絶な戦いであったか、その一端を知ることができました。私がこの博物館内で最も印象に残ったことは、ベトナム戦争に巻き込まれて命を失った報道陣の記録です。ベトナム入りしてわずか10日後にその生涯を終えた青年の記録を見た際に、戦争というものへの強い嫌悪を再確認しました。平和な世界を、という前に当たり前に命が奪われるということは絶対におかしいと強く感じました。長崎であっても、ベトナムであっても、間違っているものは間違っていると、私たちが主張していかなければならないと感じました。敷地内には、当時のものを再現した刑務所がありました。多くの悲惨な写真や処刑場などを見て、罪のない人々が理不尽に殺害されていたことに心が痛みました。人と人が争っている様子や米軍による枯葉剤の影響で苦しんでいる人々の写真が強く印象に残っており、自分達の想像以上に、戦争は恐ろしいということがよく分かりました。また、博物館には様々な国の人々が訪れていて、戦争の大切さを世界中に発信することの大切さを実感しました。



↑落とし穴（中に仕掛けが…）

その後私たちは、全長約二百キロメートルのクチトンネルを訪れました。クチトンネルはベトナム解放勢力の象徴とされている、まさにベトナム軍の作戦本部と呼べる場所です。戦争の悲惨さを伝える場所でありながら、魅力的な観光地としての一面も兼ね備えており、歴史の伝え方に長崎との差異を見出しました。人ひとりやっと通ることのできる隠し穴や、米兵に対する罠など、当時の様子をありありと想像することができました。ここでの体験を通して、異国の歴史を学ぶ重要性を身を以て実感しました。

4日目 日本語学校訪問、市内見学

最終日は、午前には現地の日本語学校を訪問し、午後にはホーチミン市内を見学しました。日本語学校「SU BARU 外国語センター」では、現地学生と交流しました。グループに分かれて、日本語で会話をしました。学生の皆さんは、間違えることを恐れず、積極的に話しかけてくださいました。学習意欲の強さを感じ、自分も意欲的に取り組もうと、良い刺激を受けました。市内見学では、天后宮に行きました。寺院内は、長崎でもよく見かける中国様式で、壁には、龍踊りの絵がかけられていて、親しみを感じました。寺院の前では、お供えするための生きた小鳥が売られていて、日本では見ない光景に驚きました。その後、南ベトナム政権時代の大統領官邸である統一会堂へ行きました。敷地内の庭には、二台の戦車が展示されていました。事実上ベトナム戦争終結となった、ベトナム解放軍の無血入場の際、実際に入場した戦車でした。改めて、戦争を経て、今のベトナムがあるのだと実感しました。



交流会の様子



統一会堂



天后宮

(大きな渦巻き型線香をつるしています)

